

令和2年3月6日

うきは市議会議長 櫛川 正男 様

厚生文教常任委員会

委員長 佐藤 湛陽

委員会調査報告書

令和元年第4回うきは市議会定例会において、閉会中の継続調査申し出の所管事務調査を行ったので、うきは市議会委員会条例第36条の規定により、下記のとおり報告する。

記

I. 放課後子ども総合プランに関する調査

1. 調査期日 令和2年2月3日（月）
2. 調査場所 愛知県東海市役所 議会棟
3. 出席者 厚生文教常任委員6名、保健課長、議会事務局職員 計8名
4. 調査目的

全国的に少子化が進んでいる中、昨年10月からは「幼児教育・保育の無料化」がスタートした。今後、働き方改革により女性の社会進出が求められ、放課後児童クラブのニーズはますます増加することが予想されている。

また、地域によっては「子供会」が機能せず、地域での自然体験や友だちとの遊びなど、本来幼少期に大事とされる体験活動が十分でない現状もあり、そうしたことが社会を生きぬく力、いわゆるチャレンジ精神が育たないことにもつながっている。

そこで、愛知県東海市が取り組む「放課後児童クラブ」と「子ども教室」を一体的に進める「放課後子ども総合プラン」について調査を行った。

5. 調査結果

【1月28日の事前調査結果】うきは市の課題

①千年学童保育所などで待機児童がいる。	⑥児童一人あたりの専用区画を満たしていない。
②6年生までの受け入れができない。	⑦施設の老朽化
③保護者会の運営により保護者の負担が大きい。	⑧支援員の処遇改善と確保
④保育の質の向上	⑨保護者が支援員を雇用する構図
⑤保育料や預かり時間など統一されていない。	

放課後子ども総合プランとは

共働き家庭等の「小1の壁」を打破することと次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした「子ども教室」と「放課後児童クラブ」の計画的な整備等を進めることを目的とする。

東海市は昭和44年に2町が合併し、今年で50周年を迎えている。人口は11万4千人と多い一方、面積は43平方キロメートルで、うきは市と比較すると36%程度と狭い状況となっている。臨海部には中部圏最大の鉄鋼基地を抱え、近年は伊勢湾自動車道、名古屋港、中部国際空港の整備により陸・海・空の交通の要衝として重要な役割を担っていた。

さて、放課後子ども総合プランは平成26年5月に厚生労働省及び文部科学省の両大臣名により発表されたが、東海市はそれ以前から学校の余裕教室を活用して「放課後児童クラブ」と「子ども教室」を行っており、一体型のモデルケースとして当時から紹介されていた。

子ども教室については、平成14年度に小学校が週休2日制になったことに伴い、子供達の土曜日の居場所づくりとして、「子どもと地域の友遊サタデー推進事業」という名称で先進的に取り組んでいた。放課後児童クラブについては、平成19年度に利用者の増加という課題の解決を協議する中で、それまでの児童館から小学校の余裕教室を活用した現在のスタイルに変わっている。直ぐに全校で始められたわけではなく、粘り強く説明し協力いただける学校を順次増やしていった。(平成23年度移行完了)

両事業を推進するに当たり、社会教育関係者や学校関係者、PTA関係者といった方々を中心に組織した「放課後子ども総合プラン運営委員会」を開催し、各小学校での取組内容や運営方法、安全対策等の情報共有を行っている。また、各小学校に事務局を置き、学校と随時連絡調整等を行い、両事業の年間プログラムなど具体化を図っていた。

子ども教室		放課後児童クラブ
地域のボランティア講師による 文化、スポーツなどの体験教室	趣旨	保護者が就労等により昼間家庭 にいない児童の遊びや生活の場
小学校1年生～6年生 (参加を希望する児童)	対象	小学校1年生～6年生 (登録児童)
参加条件は特になし (内容によって、対象学年を定める場合あり)	条件	保護者が就労、出産前後、疾病、介護等 の理由で、児童を監督・保護できない場合
市内全12小学校	実施場所	市内全12小学校
平日 月～金曜日のうち、おおむね2日 (授業後から最終下校時刻まで) 土曜日 (午前中の2時間程度)	開催頻度	平日 月～金曜日 (授業後から午後7時まで) 長期休業日 月～土曜日 (午前8時から午後7時まで)
参加料は無料 (材料費は実費)	料金	利用料1～3年生 無料 4～6年生 3,000円/月 別途、保険料800円(必須)

※児童クラブには上記以外に民設民営が3箇所ある。

子ども教室の概要

子供たちが様々な体験活動を行うこと。及び子供たちの安全安心な居場所をつくることを目的としている。放課後や土曜日等に小学校の特別教室を活用し、地域の方々の参画を得て子供たちにスポーツや文化活動などを行う体験活動を実施している。安全対策として、1年生・2年生の参加児童には保護者のお迎えをお願いしている。

募集方法としては、子ども教室の指導員が毎月募集チラシを作成し、学級担任を通じて全児童へ配布している。各小学校には臨時職員として任用している主任指導員が1人、指導員を2人以上を置き、学校との調整や体験教室の企画運営を行っている。体験教室の講師については、地域の方々にボランティア講師として参画してもらっている。なお、現在の登録数は130人となっていた。

開催実績については、平成30年度が実施件数が750件（前年比▲13）、参加者数1万5147人（前年比309増）で一教室あたりの平均参加数20.2人となっている。また、ボランティア講師数は延べ1,811人となっていた。（別紙資料1参照）

質疑（主なもの）

Q：空き教室を活用したことによる管理等の問題や改善点は何か。

A：良い点…児童が学校外へ出ることがないため、安全・安心が確保される。

悪い点…利用児童の増加により、教室の維持・確保が難しい。

学級編成等の変更があるため、毎年度学校と調整が必要となる。

Q：子ども教室の体験メニュー及び地域との連携はどうされているのか。

A：体験メニューについては、「ものづくり、工作体験」を始め、スポーツ活動、文化活動等、様々な分野がある。主なものとして、折り紙、手芸、ハンドボール、人形劇、お菓子作りなどがある。地域との連携については、体験教室の講師を地域のボランティアが担っており、学校・子供・指導員と近い関係の方々が参加することで、お互いに顔なじみになりやすく、子ども教室の良好な運営の一助となっている。

Q：地域のボランティア講師を確保するために取り組んでいることは。

A：市の広報で募集する。また、子ども教室の指導員が知人（企業・団体含む）に声をかけるなど、口コミで募集する方もいる。

Q：学校との関わり方や教員の負担軽減策はどうされているのか。

A：子ども教室・児童クラブともに各小学校の余裕教室を利用しているため、学校の理解を得ながら事業を実施している。併せて、児童の安全を確保するため、情報を共有するなど、常に学校と連携・協力をしている。また、教員の負担軽減策として、責任の所在を実施主体の社会教育課と明確化し、事故等が発生した場合、学校を介さずに対応できるようにしている。

Q：放課後児童クラブの学習支援はどのようにされているのか。

A：教員のOB・OGを指導員（放課後アドバイザー）として雇用し、学習時間のサポートにあたっている。

6. 所見

うきは市は前述したように様々な課題を抱えており、一朝一夕には問題を解決することはできないが、一方で、女性の社会参画は進んでおり、東海市でも本市同様に利用児童数は増加傾向であった。学校の余裕教室を活用することについては、一部御幸小学校での事例は存在するが一教室と少ないのが実態であり、管理等の問題で解決すべきことも残っている。しかしながら、今後ますます利用者が増えることが予想される中、新たに公共施設を整備することは現実的ではない。東海市のように利用率が少ない特別教室を活用する方法も検討すべきである。

子ども教室については、本市での事例はないが国も整備を進めており、放課後児童クラブと併せて「小1の壁」を打破するためには必要だと認識している。東海市では責任の所在を社会教育課に一元化し、福祉部局や学校との連携を図っていた。本事業を導入するには地域でのボランティア講師の確保など課題もあるが、生涯学習課が行っている社会教育分野との連携によって解決できる部分もあるのではないかと思える。

「地域全体で子育て」というコミュニティ・スクールの考えにも通じることであるので、関係部署が横串を通しながら子育て支援の面からも全ての児童が放課後等を安全・安心して過ごし、多様な体験・活動が行える居場所づくりを進めてもらいたい。

II. 糖尿病・腎臓病の重症化予防に関する調査

1. 調査期日 令和2年2月4日（火）
2. 調査場所 蒲郡保健医療センター
3. 出席者 厚生文教常任委員 6名、保健課長、議会事務局職員他
4. 調査目的

我が国は、人生100年時代とも言われる長寿化の時代が到来すると言われている。そうした中でも、健康で活動的に暮らせる期間、いわゆる「健康寿命」をいかに延ばしていくかが重要である。

うきは市においても、検診率の向上に向けて広報活動や保健指導に取り組んでおり、併せてロコモ予防教室や糖尿病教室といった健康教室も開催している。しかしながら、本市の国保医療費は同規模平均、福岡県、国と比較しても高い状況が続いており、国保が持つ構造的な問題や医療機関が近隣に多いことも要因かと思われるが、厳しい財政状況の中で今後ますます重要な分野といえる。

こうした中、国は保険者努力支援制度等により、自治体の重症化予防の取組を促進し、昨年3月には「糖尿病性腎症重症化予防に関する事業実施の手引き」を作成するなどして、地域のかかりつけ医や専門医、医師会と行政が包括的な連携体制を構築することを求めている。愛知県蒲郡市はいち早くネットワークづくりに取り組んだ先進地であり調査を行った。

5. 調査結果

蒲郡市は愛知県の南東部に位置し、人口は8万人で、蒲郡競艇場やリゾート施設の「ラグーナテンボス」があり、産業面では温暖な気候を活かしたフルーツ栽培が盛んで、特に「蒲郡温室みかん」が全国的に有名である。

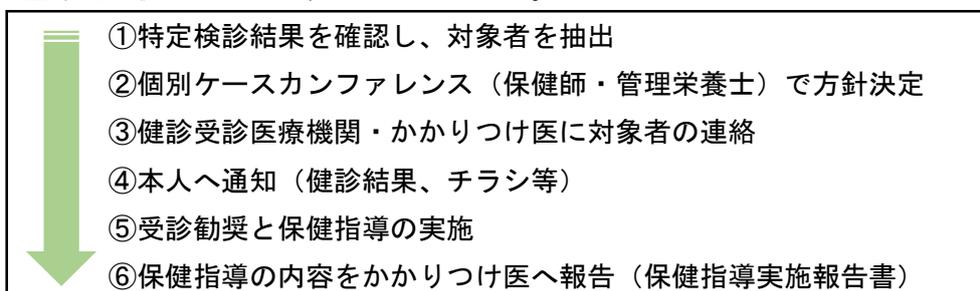
さて、蒲郡市が健康づくり施策を推進するきっかけとしては、平成23年度に実施した以下の調査結果があったからである。

- ・ 国保特定検診メタボ該当者割合 24.7% 愛知県内 1位
- ・ 国保特定保健指導終了率 4.8% 愛知県内 最下位
- ・ 人工透析者数（人口1万人対比） 26.5人 愛知県内 4位
- ・ 国保生活習慣病医療費、厚生医療費が年々伸びている

こうした健康課題がゆくゆくは市の財政に影響することから、財政部局からの健康政策の提言もあり、市長の理解につながって、平成25年度からは「健康づくり」が市の重点施策となっている。全庁的な健康づくりの取組みとするためにも若手から係長までの職員を集めてプロジェクトチームを発足させ、以降の様々な健康事業の推進を行っていた。

国保データベース（KDB）を用いたデータ分析により、市民の健康状態を把握し効果的な保健指導に繋げていた。また、保健指導の効果を上げるために参加者のモチベーションを上げる取組としてインセンティブ事業も併せて実施している。

糖尿病・腎臓病重症化予防については、早期発見・治療を行うことで人工透析といったリスクを軽減するとともに、病気からの回復を早め、再発を防ぐことを目的としている。基本的な流れとしては次のとおりである。



以上のような取組をしたことで、毎年対象者は減少し面談できた方はいずれも健康状態の改善がみられている。

うきは市でも平成23年度から県のモデル事業として、平成25年度からは市独自事業として同じような取組は実施しているが、蒲郡市の特徴として、平成31年4月から「蒲郡腎臓病ネットワーク」が運用開始されている。このネットワークは腎臓病連携基準を作成し、かかりつけ医と腎臓専門医の連携を促すもので、うきは市においても今後検討すべき課題となっている。

かかりつけ医としては、専門医に患者を取られるのではないかと心配し連携が上手く図れないことが多々あるが、このシステムでは患者を一旦預けるが100%かかりつけ医のもとに帰す仕組みとなっている。（別紙資料2参照）

このネットワーク構築に当たっては、外科の医師から提案されたという話を聞き大変驚かされた。重症化して受診するケースが見受けられ、何とか早期に発見・治療を行える体制づくりを整えたいとの患者目線に立った考えからであった。紹介基準についても、誰もが分かるように簡略化していることも特徴と言える。

実績としては、4月からの8カ月間の運用で122件ということであった。

質疑（主なもの）

Q：かかりつけ医や専門医療機関との連携した診療体制の構築にあたり、問題点や改善点は。

A：かかりつけ医と専門医の先生方が非常に積極的で問題点はない。顔の見える関係づくりの場として協議会を発足させ、関係者間の情報共有を行っている。

Q：重症化するリスクの高い方への未受診対策のため、どのような保健指導を行っているのか。

A：特定検診のほとんどは医療機関で受診される。そのデータを管理栄養士と保健師が随時分析し、個々の傾向を捉え面談等で保健指導を行っている。

Q：住民の健康意識啓発をどのようにされているのか。

A：平成23年度に実施した結果が非常に悪かったが、それ以降市長が挨拶をする際は、糖尿病やメタボが多いという悪いデータを事あるごとに紹介し、それがマスコミにも取り上げられ、市民の意識の変化につながったのではないかと。

Q：健康増進の取組として、他部署との連携をどのようにされているのか。

A：全庁横断のプロジェクトチーム（5チーム）を設置し、食事や運動、意識づくりなどそれぞれに目的を定め活動を行っている。（別紙資料3参照）

6. 所見

愛知県は健康寿命が男女とも高いことが知られている。その要因については今回の調査でも分からなかったが、蒲郡市が市民の健康を第一に考え、市長のトップダウンのもと全庁挙げて推進してきたことは理解できた。

腎臓病重症化予防については、連携会議や多職種研修会によって医療機関の先生方との良好な関係を築けており、そのことが医療連携、行政の施策推進にも役立っていることが伺える。

人工透析は機能が低下した腎臓に代わり、機械で血液の老廃物を取り除く方法で1回につき4～5時間かかる治療を週3回程度、ずっと受け続ける必要があり身体的にも金銭的にも大きな負担となっている。さらに糖尿病はそのまま放置すると、心筋梗塞や脳梗塞などリスクが高い病気を併発する危険も指摘されていることから本事業については今後更なる推進を求めたい。

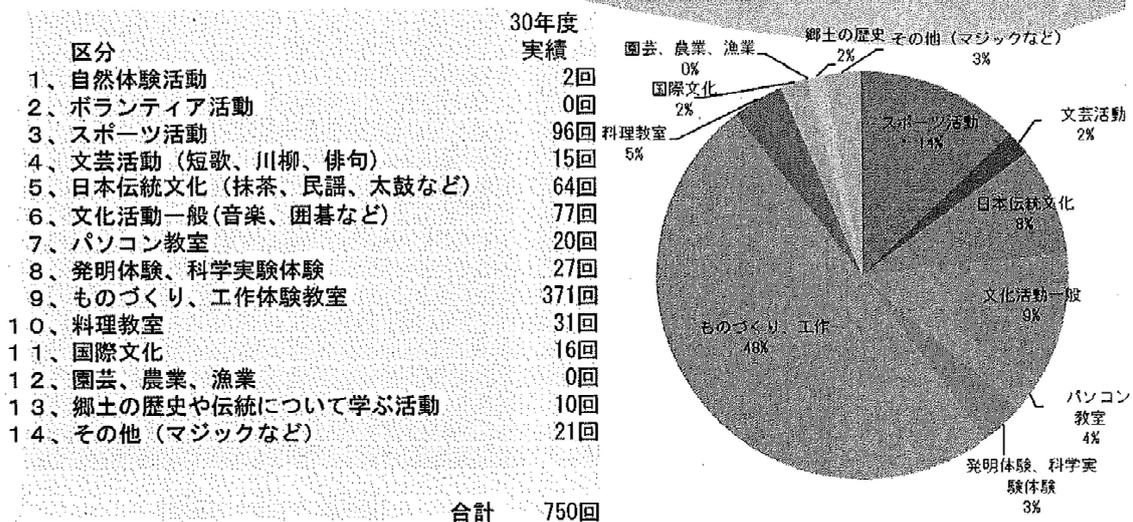
以上厚生文教委員会からの報告とする。

平成30・29年度子ども教室開催実績

	30年度				29年度			
	実施件数 (件)	参加者数 (人)	平均参加数 (人)	講師等 (人)	実施件数 (件)	参加者数 (人)	平均参加数 (人)	講師等 (人)
緑陽小学校	86	1,634	19.0	200	80	1,573	19.7	203
名和小学校	53	1,039	19.6	131	54	1,240	23.0	190
渡内小学校	83	1,487	17.9	177	89	1,297	14.6	224
平洲小学校	53	1,270	24.0	115	57	1,395	24.5	119
明倫小学校	52	931	17.9	103	52	854	16.4	135
富木島小学校	61	1,064	17.4	162	62	810	13.1	163
船島小学校	54	1,017	18.8	88	53	917	17.3	96
大田小学校	65	1,648	25.4	155	64	1,660	25.9	160
横須賀小学校	79	1,335	16.9	247	88	1,275	14.5	242
加木屋小学校	62	1,664	26.8	191	64	1,781	27.8	143
三ツ池小学校	48	1,183	24.6	130	49	1,135	23.2	102
加木屋南小学校	54	875	16.2	112	51	901	17.7	82
計	750	15,147	20.2	1,811	763	14,838	19.4	1,859

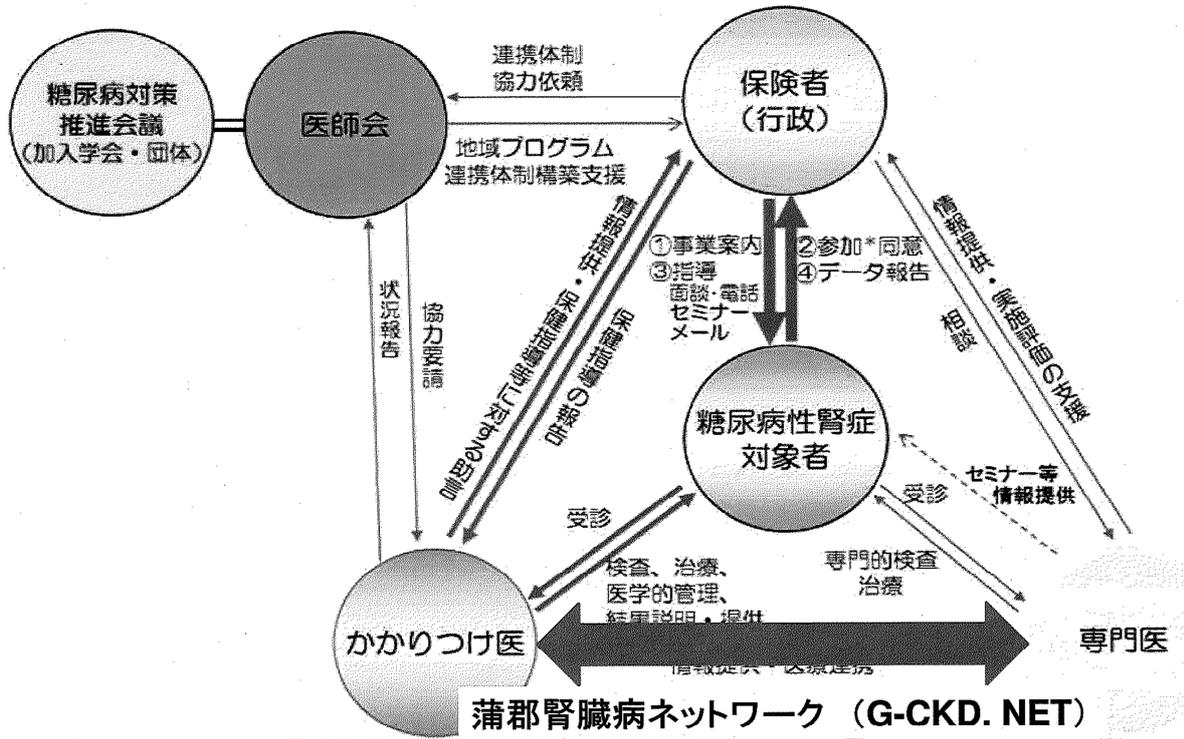
4

平成30年度分野別教室開催状況

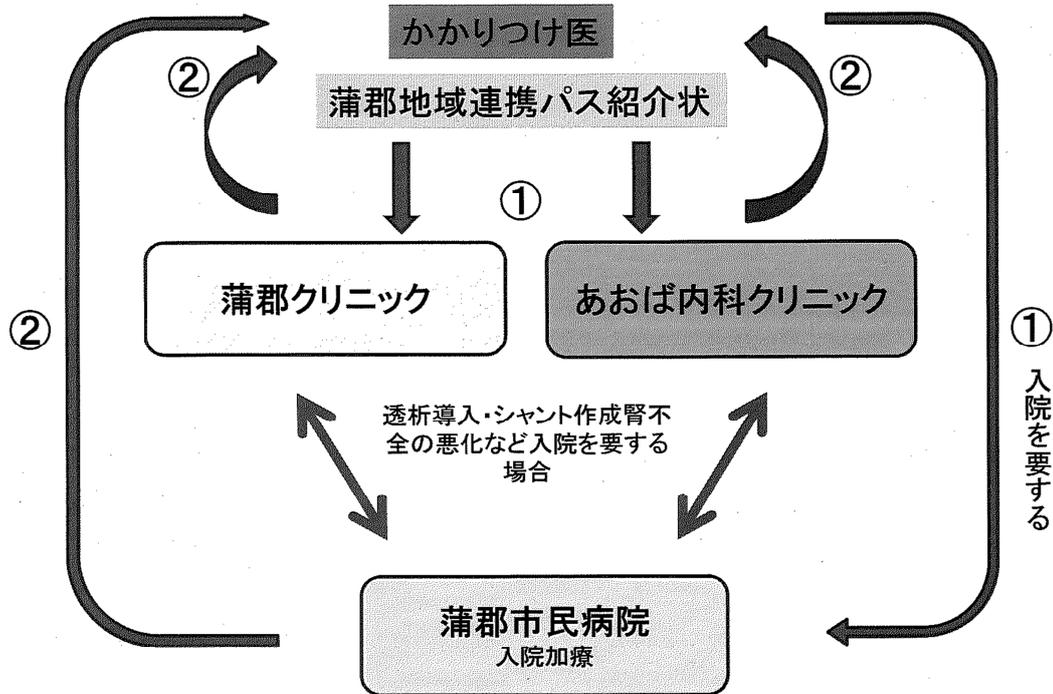


5

蒲郡市の糖尿病性腎症重症化予防プログラム ～関係者の役割～



かかりつけ医と腎臓専門医の連携



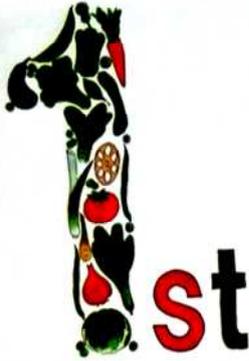
腎臓専門医はかかりつけ医と定期的に連絡をとりCKD患者のF/Uを行う。
腎臓専門医が腎生検を必要と考えた場合は市外の病院を紹介する。

健康がまごおり21 第2次計画推進 行政チーム 健康化政策全庁的プロジェクト活動

今年も行政
チームで
健康化政策
推進
体重測定100日
チャレンジ

一口目は、野菜から食べよう!

野菜ファースト

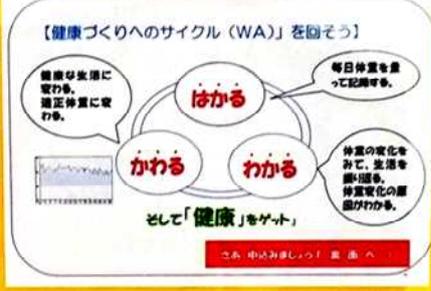


●サラダや煮物などで、野菜(食物繊維が多く含まれるもの)を先に食べる。高糖質・高脂肪の食品は、糖の吸収をおだやかにする効果、腸内の活動や代謝の向上に効果があります。
●野菜の加熱方法 → 煮・焼・炒めがおすすめ。この際の油を減らすと、血中の脂質と血糖値を下げることが出来ます。

※健康増進政策推進プロジェクト「健康ファースト」を推進しています。
問合せ先 健康推進センター TEL: 053-67-1151

「体重測定100日チャレンジ」 平成28年度のテーマは「WA(輪)」 ～体重測定で健康づくりの輪を広げよう!～

【私(W)もあなた(A)も「輪」になって取り組もう】
◎家庭で・・・夫婦の輪、親子の輪、家族の輪!
◎職場で・・・同僚の輪、上司と部下の輪、部署の輪!
◎地域で・・・サークルの輪、公民館活動の輪!
※グループで登録して団体参加ができます
※Web掲示板「WA」で参加者同士の近況報告や情報交換
※体重測定100日チャレンジと仲間たちからのWeb健康情報



「体重測定100日チャレンジ 参加方法」

チャレンジ期間:平成28年11月1日(火)～平成29年2月8日(水)
対象者:市内在住・在勤の方
◎参加方法 (ご自身の参加方法を選んでください)
1) オンラインで参加
2) 印刷用紙に回答
3) 印刷用紙に回答
4) 登録完了、体重測定100日チャレンジへGO!

4グループ「健康づくりの場づくり」の活動

市民のみならず、健康で生きがいをも、いきいきと生活できる地域づくりに向けて、人と人とが繋がる取組みを目指しています。
みんなの力で健康のけんこう輪を広げよう!

湯舟行んこう地、募集します。

おもしろい、気楽な湯、心地よい湯の湯、健康増進の湯...
湯舟行んこう地、募集します。
おもしろい、気楽な湯、心地よい湯の湯、健康増進の湯...
湯舟行んこう地、募集します。

丸紙の塩のないクリーンなまき器へ

健康増進を促そう!
健康増進を促そう!
健康増進を促そう!

動く

～何でも「運動」と意識することの推進～

平成28年度「健康・運動チャレンジ」の作成、配布

このポスターを
職場・学校・地域の
掲示板などに貼る
運動に関する
情報を集める
イベントにて運動参加活動

プラススタンのまっけつくり

「毎月10日は運動の日」とラジカセの健康
～手紙を届けて
ラジカセの健康情報を届けて
イベントを開催する
健康増進を促そう!
健康増進を促そう!
健康増進を促そう!

「人づくりと意識づけ」の推進

取組み1

市民のみならず、もっと健康づくりに関心をもちたいと、健康づくり推進向上マッチコピーを推進し、371名の中から選ばれたマッチコピーを活用し、健康づくりをPRしています!
ポスターにて掲示、保健センター公用車に掲示、マッチコピーを掲載したマスクやティッシュ作成・配布しながPR! などなど

取組み2

市民のみならず、もっと自分の健康に関心をもちたいと、生活習慣病の予防・改善のために健康増進を促そうと、健康増進に関するアンケートを実施しながら、健康増進の大切さをPRしています!
ひとねる駅や食育フェスタ、健康まつりなどのイベントで開催しています。